

昭和56年12月	富山市高等教育機関研究委員会から、富山市における高等教育機関の整備について答申があり、高等教育機関として専門学校設置の提言を受ける
昭和58年度	答申の趣旨を踏まえ、富山市として「新しい時代の高等教育を求めて」を策定 (1)国際教養学科 英語コース ⇒ 外国語専門学校 (2)家庭生産学科 ガラス工芸コース ⇒ ガラス造形研究所
昭和60年4月	富山市民大学ガラス工芸コース開設
昭和63年3月	富山中央部丘の夢構想調査報告書に呉羽丘陵を中心に新たなリクレーション空間を創出する案のひとつとして、初めて「ガラスの里」のイメージが語られる
昭和63年9月	富山ガラス工芸教育機関設置委員会を開催
平成元年3月	社会福祉法人富山市社会福祉協議会のガラス工芸共同作業所が開設
平成2年7月	富山ガラス造形研究所校舎起工式
平成2年9月	富山ガラス造形研究所の設置を公布
平成3年4月	富山ガラス造形研究所が開校
平成3年6月	富山ガラス造形研究所開校記念式(本館完成 1,734.40m <sup>2</sup> )
平成5年5月	富山ガラス造形研究所研究科棟完成(568.86m <sup>2</sup> )
平成6年4月	富山ガラス工房が開設
平成8年7月	「ガラスの里」構想策定のための庁内勉強会を開催
平成8年9月	「ガラスの里」構想策定のための庁内連絡会を設置
平成8年10月	[ガラスの町づくり事業]スタート(ミニケースギャラリー/現在10ヶ所30基)
平成8年11月	富山ガラス個人工房建設スタート(平成9年4月開設/現在4棟8戸)
平成8年11月	庁内「ガラスの里」基本構想検討委員会を設置
平成9年1月	庁内「ガラスの里」基本構想検討幹事会を開催
平成9年7月	庁内「景観行政にかかる連絡調整会議」が開かれ、市の中心地区における橋梁整備にガラス造形を積極的に活用しようとする指針づくりを行う
平成9年7月	「ガラスの里」基本構想策定委員会を設置
平成9年11月	[ビューティーロード事業]として駅前から市役所までの県庁線歩道にステンド・グラス仕様のプレートを設置(現在13ヶ所)
平成10年3月	「ガラスの里」基本構想策定委員会から「ガラスの里」基本構想の策定報告を受ける
平成10年4月	富山ガラス造形研究所の研究科を1年制から2年制とする
平成10年4月	庁内「ガラスの里」基本構想検討委員会を改組し、庁内「ガラスの里」推進委員会を設置
平成10年6月	市民啓発事業[Glass '98 in とやま]を開催し、記念講演、公開デモンストレーション等開催
平成10年9月	「ガラス美術館」の基本方針や性格を審議するため、「ガラス美術館」基本構想策定委員会を設置
平成10年10月	市民啓発事業として公開フォーラムを開催
平成10年12月	「ガラス美術館」の収蔵品の選定・評価のため「ガラス美術館」収蔵作品選定委員会を設置
平成11年3月	富山ガラス造形研究所、富山スタジオグラス展を東京新宿で開催
平成11年8月	富山国際会議場のオープンに併せ、1階にガラス工芸品を販売するアートサロンを設置、同階の交流ギャラリーの一角に市所蔵のガラス作品展示のスペースを確保
平成11年11月	市民啓発事業[Toyama Glass Move '99]を開催し、展覧会、講演会等を開催
平成12年1月	富山ガラス造形研究所がオーストラリア国立大学キャンベラ・スクール・オブ・アートと交換留学制度締結
平成12年3月	富山ガラス造形研究所増設工事(特別制作室、作品収蔵庫/421.48m <sup>2</sup> )
平成12年10月	富山ガラス造形研究所創立10周年記念展開催、記念誌(図録)発刊
平成12年10月	「光の造形-チェコの現代ガラス彫刻」展(10/6~10/29)を国体スポーツ芸術主催事業として開催
平成12年11月	市民自由参加による「ガラスの街づくりを語る市民の集い」を開催
平成13年2月	寄贈作品を中心とした「藤田喬平のガラス」展を富山国際会議場1階で開催
平成13年3月	「ガラス美術館」基本構想策定委員会が基本構想をまとめる
平成13年7月	「レネー・ロウピチェク」展開催
平成13年12月	「TOYAMA GLASS×ONE 2001」展及び関連フォーラム開催
平成14年3月	富山ガラス工房拡充整備計画を策定
平成14年8月	「第1回現代ガラス大賞展・富山2002」開催
平成14年11月	富山ガラス造形研究所顧問である藤田喬平氏が文化勲章を受章。これを記念して、「藤田喬平のガラス芸術」展を富山国際会議場で開催
平成14年11月	ガラス美術館建設延期に伴い、街全体を美術館に見立てた新たな展開方針を検討。中心市街地を含めたストリートエリアへの作品展示に決
平成15年3月	富山ガラス工房拡充にともなう設計を完了
平成15年5月	ガラス美術館ストリートエリア構想の一環として、市所蔵の大型作品を佐藤記念美術館ロビーに展示(以後継続的に作品を入れ替えて展示
平成15年8月	旧トレーニングセンターに所蔵作品を移動、収蔵庫として活用開始
平成15年9月	庁内ガラスの里推進委員会ならびに総合計画ローリングの折、ガラス美術館ストリートエリア構想実施プランについて具体的に検討
平成15年10月	北陸の作家たち「ガラスワークス2003~素材と造形」開催
平成16年8月	「ガラスの街とやま」シンボルマークを正式発表
平成16年8月	「TOYAMA GLASS×ONE 2004」開催
平成16年8月	ガラス美術館・ストリートエリア構想事業の一つである「ワン・ガラス・イン・ウインドウ」事業を開始。総曲輪・中央通りを中心とした商店街の店舗に県内ガラス作家の作品を毎年展示(2006年10月終了)
平成16年10月	レンタル機能を新たに盛り込んだ富山ガラス工房の増築棟が完成・オープン
平成17年3月	富山市民プラザ2階に市所蔵のガラス作品を展示するガラスアートギャラリーを開設
平成17年3月	ガラス美術館・ストリートエリア構想事業の一環として、屋外型ショーケースを大手モールに2基設置(以後20年度まで毎年設置 全15基)
平成17年6月	東京港区の菊池寛実記念美術館で富山市所蔵のガラス作品による「現代ガラスの挑戦-光の彫刻」展を開催
平成17年8月	「第2回現代ガラス大賞展・富山2005」、愛知万博関連事業「光と空間の捕捉-チェコ現代ガラス展」を富山市民プラザで同時開催

平成17年8月	ガラスの街とやまPR事業としてタレントのはなさんを招き、富山市民プラザでトークセッションを開催
平成17年9月	「ガラスの街とやま」ウェブサイトがオープン
平成17年11月	富山市民大学ガラス工芸コースが旧八人町小学校跡地(富・八人町5-17)に移転
平成18年2月	オーバードホール開館10周年記念「舞台の上の美術館」に富山市所蔵ガラス作品24点を出品
平成18年2月	富山市役所敷地内及び大手モールなどに新たに4基の屋外ショーケースを設置
平成18年2月	ガラスの街とやま特別デザイナー第1号に、タレントのはなさんを認定
平成18年8月	「北陸の作家たち グラスワークス2006～眼差しの行方」展を富山市民プラザで開催
平成18年9月	ガラスの街とやまPR事業として山中千尋ピアノリサイタルを北日本新聞社ホールで開催
平成19年2月	城址公園南側に新たに5基の屋外ショーケースを設置
平成19年8月	西町南地区市街地再開発準備組合から、旧・富山大和跡地の再開発で、ガラス展示施設を中心とした「地域交流センター」の整備について要望を受ける
平成19年9月	「TOYAMA GLASS×ONE 2007」展を富山市民プラザで開催
平成19年9月	ガラスの街とやまフォーラムを富山市民プラザで開催
平成19年9月	ガラスの街とやま特別デザイナーにモデルの長谷川理恵さんを認定
平成20年2月	有識者による「(仮称)ガラス美術館」懇談会を開催(計2回)。ガラス美術館の建設地について、中心市街地での整備が望ましいという提言を受ける
平成20年3月	城址大通り(城址公園お堀横)に新たに2基の屋外ショーケースを設置
平成20年3月	森富山市長が3月議会でガラス美術館を中心市街地で整備する意向を表明
平成20年4月	それまで複数の部局で実施していたガラス事業を富山市企画管理部に一元化
平成20年7月	「富山市ガラスの街づくりプラン」を策定するにあたり、プロポーザルを実施
平成20年8月	「第3回 現代ガラス大賞展・富山2008」を富山市民プラザで開催
平成20年9月	ガラスの街とやま特別デザイナーにミュージシャンの矢野沙織さんを認定
平成20年10月	国際交流基金、イセ文化基金との共同主催により、イタリア・ローマで「北陸の工芸・現代ガラス工芸展」を開催
平成21年3月	今後のガラスの里の整備方針やガラス美術館の方向性を盛り込んだ「富山市ガラスの街づくりプラン」を策定
平成21年3月	城址大通り(富山県民会館前)に新たに2基の屋外ショーケースを設置
平成21年4月	富山ガラス造形研究所が県教育委員会から専門学校の認可を受ける
平成21年6月	「ガラスの里」宿舎棟及びアーティスト・イン・レジデンスの建設・管理業務の事業者をプロポーザルにより決定
平成21年7月	ガラスのミニケースギャラリー(30基)の全面改修を行う
平成21年9月	ガラスの街とやま特別デザイナーに女優・歌手の小川知子さんを認定
平成21年10月	「ポフミール・エリアッシュ展」を富山市民プラザで開催
平成22年1月	森富山市長が旧大和跡地でのガラス美術館を整備する計画を表明
平成22年3月	「ガラスの里」宿舎棟及びアーティスト・イン・レジデンスを富山市西金屋地内に設置(同年4月より供用開始)
平成22年11月	「西町南地区の公益施設整備に関する基本構想」を策定し、ガラス美術館の役割や整備に向けての基本方針を打ち出す
平成23年3月	富山ガラス工房・新工房の設計業務を完了
平成23年4月	「ガラスの里」宿舎棟を増築、供用開始
平成23年12月	富山ガラス工房内にGlass Cafe Clie(ガラス カフェ クリエ)がオープン
平成24年1月	「ガラスの里」にかわる新名称を公募により「グラスアートヒルズ富山」に決定
平成24年9月	「グラスアートヒルズ富山」において、市民や観光客のガラス制作体験に特化した富山ガラス工房 第2工房 を開設
平成27年5月	富山市西町南地区一種市街地再開発組合事業施設建築物(TOYAMAキラリ)竣工
平成27年8月	TOYAMAキラリ内に富山市ガラス美術館開館